

地上の星(50)

ゴスペルホール「聖書を読む会」

特別企画(57)

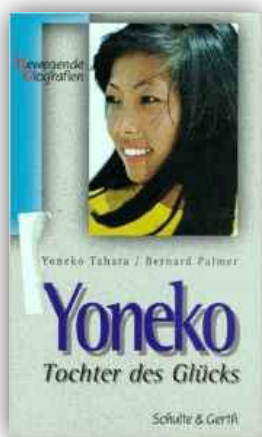
「私にはまだ三本も指がある」 死の淵から生還して 田原米子物語



昭和 12 年に八王子市に生まれ、何不自由なく中学を卒業したものの、16 歳の時、最愛の母が急死。その衝撃はあまりに大きく、孤独と不安から非行に走り、やがて生きる意義を見失い、高校 3 年生の時に小田急線の新宿駅で深夜、飛び込み自殺を図る。

奇跡的に一命をとりとめたが、両足切断、左腕切断、残されたのは右手とその指 3 本だけだった。「これからは一生、だれかに面倒を見てもらわなければならないのか」と、死に損ねたことを恨み、再び自殺を図ろうと睡眠薬を致死量までこっそりとため込んだ。

そのような彼女の病室を何度も訪れる二人がいた。アメリカ人宣教師と牧師を目指して勉強していた日本人青年（後に夫となる田原昭肥氏）であった。二人は讃美歌を歌い、聖書のことばを読んで励まし続けた。ある日、二人が置いていったカセットテープを聞いたことがきっかけとなり、生まれて初めて、渾身の力をふりしぼるようにして祈った。「神さま、助けてください」涙がとめどなく流れた。その夜は入院後、初めてぐっすり眠ることができた。翌朝、目が覚めると、窓から射しこむ朝日がまぶしく、見慣れた風景のどれもが輝いて見えた。



そして、心と自分の右手を見ると、それまでは指三本しかないと思って絶望していたのに、三本も残っていることに気づいた。嬉しくてならなかった。枕元にあった聖書を何気なくめくってみると、次の言葉が目飛び込んできた。「だれでもキリストのうちにあるなら、その人は新しく造られた者です。古いものは過ぎ去って、見よ、すべてが新しくなりました。」

今回は、神に生かされている喜びを発見し、「生きるって素晴らしい」（自伝のタイトル）と、全国各地を訪れて多くの人々に生きる勇気を与え、その人生を描いた映画で国内外に大きな驚きと感動を与えた田原米子さんの生涯から学びます。

記

1. 日時：2016年4月8日（金） 10:30 AM より
2. 場所：ゴスペルホール（電話 026-295-6705）
3. 講師：尾崎富雄（ゴスペルホール代表）

入場無料。どなたでも参加できます。